

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成 25 年 4 月）

仙台管区气象台
火山監視・情報センター

^{めだけ}女岳では南東火口で噴気地熱域が引き続き認められます。
火山性地震は少ない状況で経過し、地殻変動の状況等にも特段の変化は認められません。ただちに火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、今後の火山活動の推移に注意して下さい。
平成21年10月27日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1～2①）

東北地方整備局が仙岩峠（女岳山頂の南約 5 km）に設置している監視カメラによる観測では、女岳からの噴気の高さは 20m 以下で噴気活動は低調に経過しました。また、南東火口の地熱域に対応する融雪域が認められます。

今期間、北東斜面の噴気地熱域は認められていませんが、これまでの観測から、引き続き噴気地熱域になっていると推測されます。

・地震や微動の発生状況（図 2②～③）

火山性地震は少ない状況で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 4）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

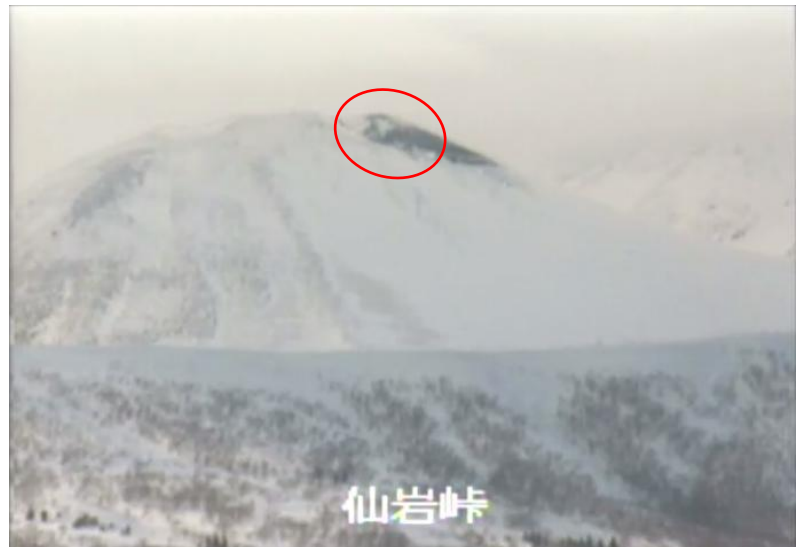


図 1※ 秋田駒ヶ岳 女岳からの噴気の状況（4月13日17時02分頃）

・仙岩峠（女岳山頂の南約 5 km）に設置されている監視カメラ（東北地方整備局）による映像です。

・実線赤丸で囲んだのが、女岳からの白色噴気で高さは 20m です。

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 25 年 5 月分）は平成 25 年 6 月 10 日に発表する予定です。

※この資料は、気象庁のデータの他、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 23 情使、第 467 号）。

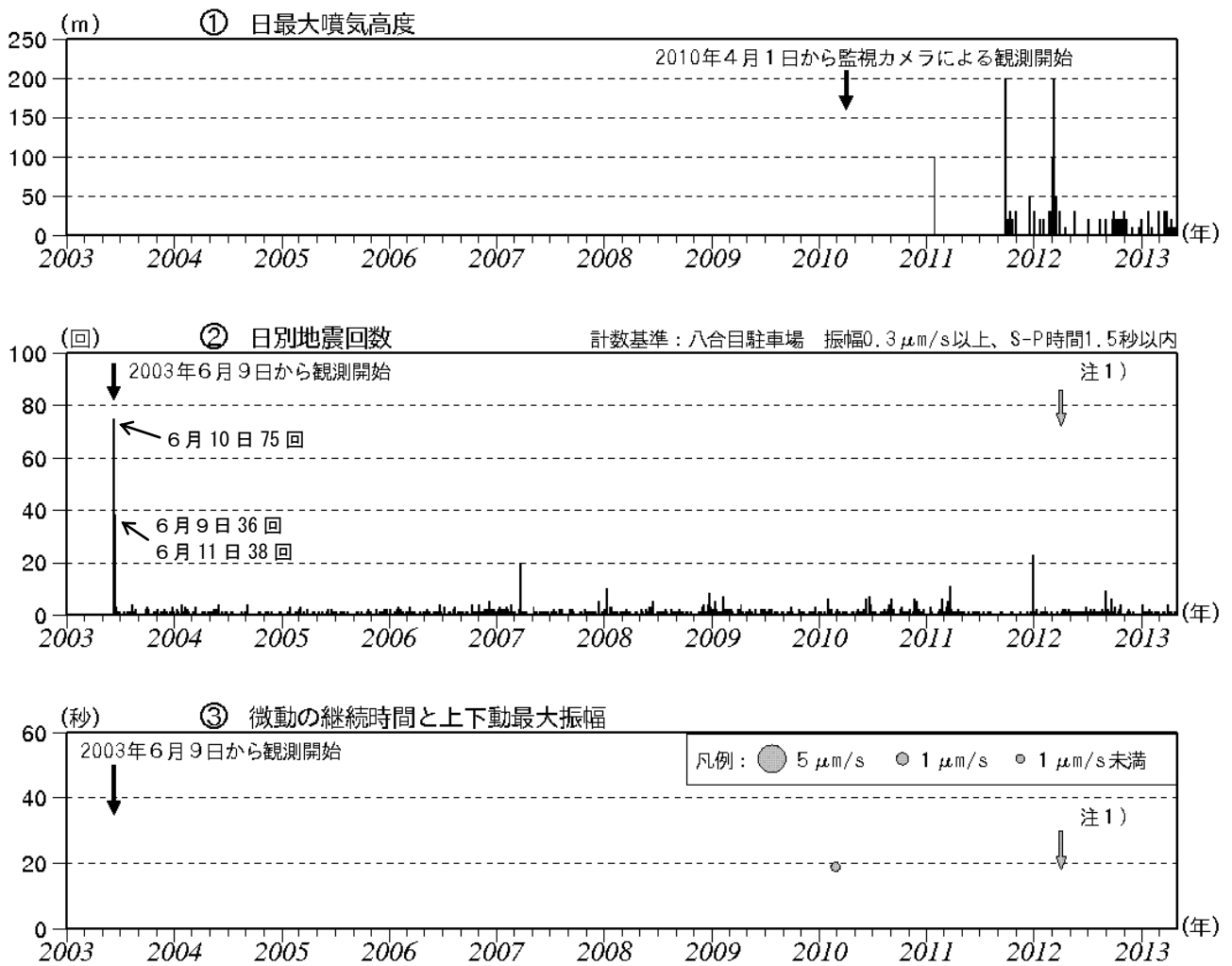


図 2* 秋田駒ヶ岳 火山活動経過図 (2003 年 6 月～2013 年 4 月)

- ・ ①熊ノ台（女岳山頂の南西約 5 km）及び仙岩峠（女岳山頂の南約 5 km）に設置されている監視カメラ（東北地方整備局）による観測です。
- ・ ②③基準観測点の変更は次のとおりです（角カッコ内は地震回数の計数基準）。
 観測開始 2003 年 6 月 9 日～東北大学秋田駒ヶ岳観測点 [振幅 $0.5 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P 時間 1.5 秒以内]
 注 1) 2012 年 4 月 1 日～八合目駐車場 [振幅 $0.3 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P 時間 1.5 秒以内]

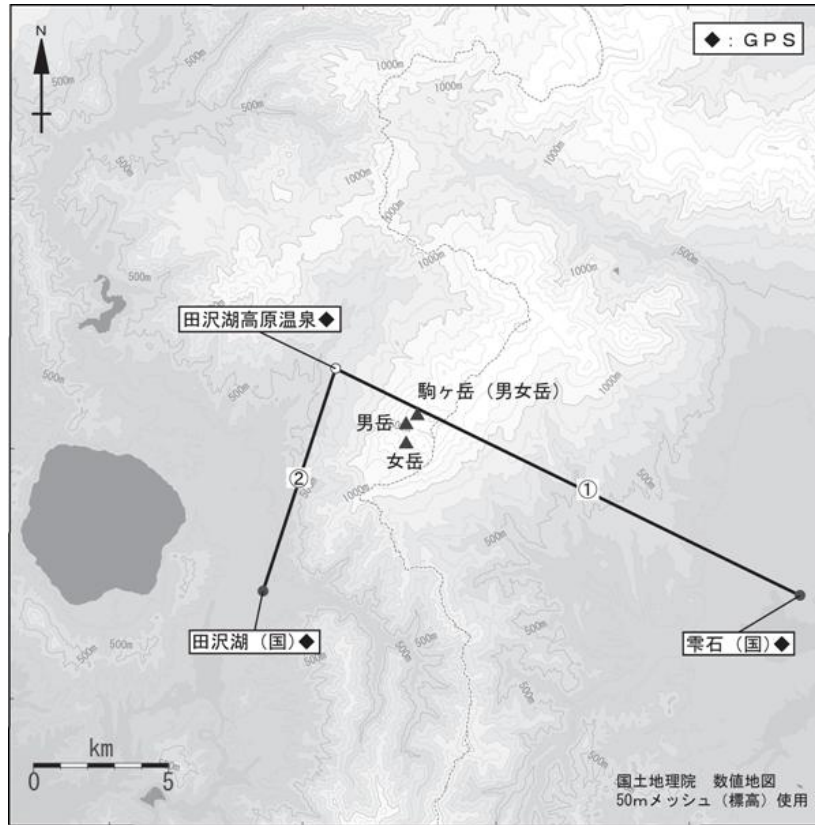


図3 秋田駒ヶ岳 GPS 観測点配置図

・小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院

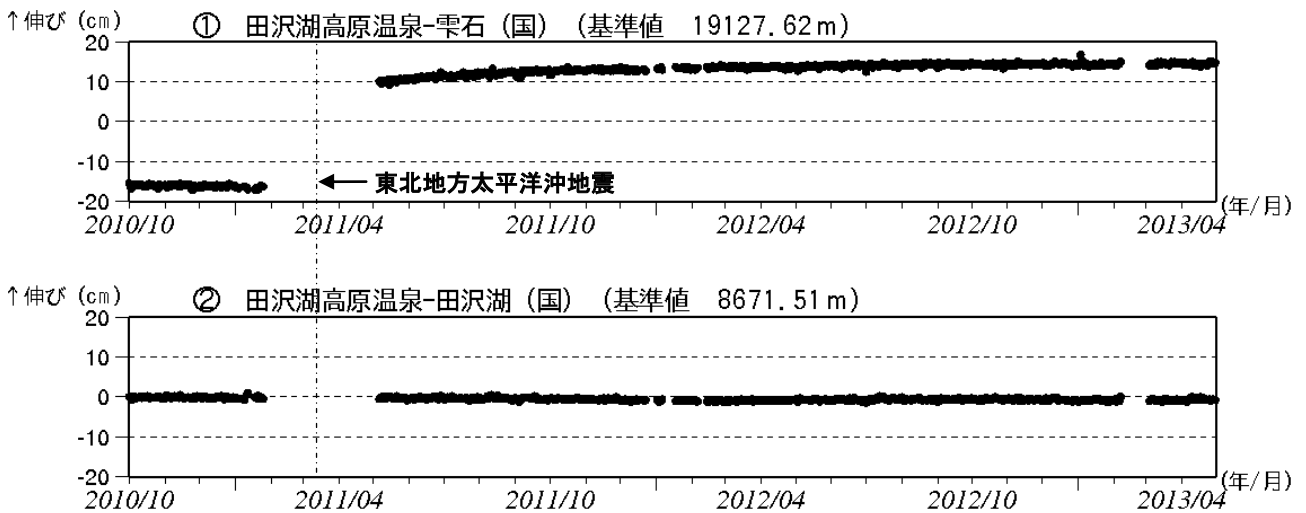


図4※ 秋田駒ヶ岳 GPS 基線長変化図 (2010年10月～2013年4月)

- ・①の基線では、欠測期間中に東北地方太平洋沖地震によるデータの飛びがみられます。また、その後の変動は、東北地方太平洋沖地震による影響であり、火山活動によるものではないと考えられます。
- ・①～②は図3のGPS基線①～②に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。

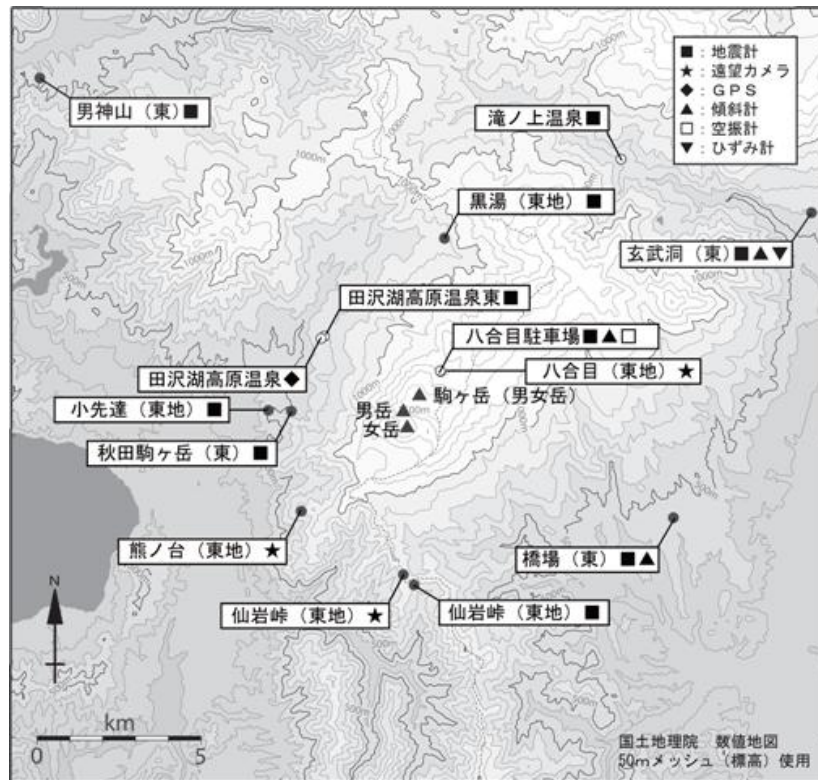


図5 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

・小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東）：東北大学 （東地）：東北地方整備局